

中野市行政改革推進委員会 会議録（概要）

日 時	平成26年6月26日（木） 15：00～16：25
会 場	市役所 31号会議室
出席者	<p>【委員】 涌井委員、阿部委員、二茅委員、小山委員、北村委員、丸山委員、東委員、小林委員 北原委員、中村委員、藤沢委員</p> <p>【市】 市長、総務部長、健康福祉部長、子ども部長、くらしと文化部長、経済部長 建設水道部長、豊田支所長、議会事務局長</p> <p>【事務局】 政策情報課長、行政管理係長、宮崎副主幹、小林主査</p>
欠席者	<p>【委員】 渡辺委員、岡村委員</p> <p>【市】 消防部長、会計管理者、教育次長</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長あいさつ 3 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第3次中野市行政改革大綱に対する答申意見（案）について 4 その他 5 閉会
資料	資料1 第3次中野市行政改革大綱（案）に対する意見等のまとめ 資料2 財政シミュレーション（歳入歳出等） 資料3 主要財政指標推移 資料4 部門別職員数の状況 資料5 県下19市の市税税率

1 開会
(総務部長)

2 会長あいさつ

6月1日から22日までばら祭りが開催され、県内外から大変大勢の方々がお越しくださいました。若干人数は少ないようですが、それでもまずまずだったと思います。

本日は、第2回目の委員会ということで、ご多用のところ出席いただきありがとうございます。前回は、大変多くの意見を頂きまして、本日は、答申案をまとめて行きたいと思っております。皆さま方の忌憚のないご意見を頂きまして、市へ立派な答申ができますようご協力をお願いいたします。

3 協議事項

(1) 第3次中野市行政改革大綱に対する意見答申(案)について

【会長】

前回会議の意見を事務局の方でまとめていただきましたので、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

本会議に先立ち、パブリックコメントを実施いたしましたが、ご意見等はございませんでしたのでご報告申し上げます。

(資料を説明)

【会長】

まず、資料2から5までの件についてご質問ありますでしょうか。

【委員】

財政シミュレーションですが、10年先は予測しきれないということですが、本当は、わざと出さないのではないか。10年先以降から税収がどんどん減っていくのではないかと私は懸念する。市民会館、市庁舎を造るにあたって、長期的な財政がわからない上で財政面が心配でならない。10年先以降のシミュレーションはできないものなのか。

【事務局】

今回は10年先までの財政シミュレーションが出ておりますので、ご提示させていただいております。15年後、20年後にどんな需要があるかというのは、予測しづらいところがあります。それから、人口が減っていくなかで、税収がどう推移していくかというのも予測しづらいところもございます。

現段階で、想定できる事業等で推計はできますが、予測していない事業等が出てきた場合、的外れの推計になりかねないので10年先の推計としております。

【委員】

シミュレーションに盛り込む要因は、通常は最悪の状態だと思う。特に加味して欲しいのは社会資本のストック状況だと思う。今後中野市にとって、少子化に伴い大変大きな負担になると思う。このシミュレーションにはそれが含まれていないような気がする。財政シミュレーションは、最悪の状況、社会資本ストックなどを含めて作成してもらいたい。

【委員】

職員数について、正規職員が減って嘱託臨時職員が増えているのは矛盾していると思う。本来、効率化が図られていくのであれば、正規職員数が減れば嘱託臨時職員数も減っていいのではないか。

特に保育関係について、法律の改正等で民営化も進んでいるが、その辺がよくわからないのでご説明いただきたい。

【事務局】

保育園の職員数が減ってきたのは事実で、正規職員数について、合併前と平成25年度を比べると、民生部門で11名減少しておりますが、近年、保育事情等々を考慮し保育士は増加傾向にあります。

嘱託臨時職員が多いということについて、嘱託臨時職員で対応できる部分と、正規職員で対応しなければならない部分があるかと思えます。それらを考えて、今後子育て支援を重視する方向で展開しておりますので、それらも加味して対応していると考えております。

【委員】

これからは子どもたちの育成が重要だと考えている。そういった中で、正規を減らし嘱託臨時で対応するのは納得できない。正規を減らし嘱託臨時で対応するのではなく、手厚くするところは手厚く対応する行政を行っていただきたい。

【委員】

曖昧で答申としてどうかと思う。私は、たまたま小中学校適正規模等審議会の委員をやっている。小学校の学区と住宅分布とを重ねると、地域によっては人口減少が激しい地域がある。人口減少が進んでいる地域では社会資本ストックが負担になっていく。中野市の中で、過疎化が進む地域とそうでない地域での政策をどうやっていくのか具体的に

に記述すべきだと思う。「市民満足につながる行政運営」とあるが、どういうことなのか不十分であると思う。

【委員】

色々な意見が出た中で、答申意見としてまとめるとこのようなものになるのかなと思っている。私が言いたいことは、これから大型事業をやるにあたって、行政に気を付けていただきたいことは、人口減少を食い止めること、市全体の経済を活性化させ市税の増収を図ること、無駄をなくすことの3点である。

何かをやるには、条件があって、市庁舎を造るにしても、市として何を真剣に取り組んでいくかを市民に示していただきたいと思う。市長は前回、民間感覚で行政を行っていきたいと言われたと思うが、今まで何に取り組んできたのか、我々市民にはいまひとつ伝わっていないような気がする。是非お聞かせいただきたい。

【会長】

市長は途中で退席されるので、ここで市長のご意見をお聞きしたいと思いますが、市長よろしいですか。

【市長】

人口減少を食い止めるのは、どこの自治体でも課題となっている。その中で中野市としてどうするのかという問題は、基本的には人口減少は国全体の問題であると思っています。ただし、エリアの中で減らさないという策を考えていかなければならないと思っています。人口減少と経済活性化というのは連動していると思います。経済産業の活性化ということに関しましては、これから中野市に多くの人に住んでもらう、中心市街地をどうするか、空き店舗活用等々どうするか、企業誘致、産業誘致等も、今は工業団地の造成はございませんが、他地域の例によりますとあります。若い人が移り住んでくれるような策を打っていきたいと思います。

これまで何をやってきたかという質問については、交流と連携と協働ということを唱えて参りました。市民の皆さまにお声かけをいたしまして、自分たちのことはまず自分たちで考えて欲しい、そこから出てきたものに対して市としては色々な施策、ご支援をさせていただくということでやって参りました。外に向かつては、今までの中野市は色々なセールス活動を市としてやったことは無かったのではないかと考えております。

対外的にここに中野市がある、中野市の産物がある、人がいるということを知ってもらうために、私はある程度全国行脚したつもりです。また、今回のアンサンブルフェスでもおわかりのように、これまで交流関係のあった都市だけではなくて、実体として動く交流をしようということで、知音都市、関係交流都市、姉妹都市にお集まりいただいて、これからも続けます、新しいネットワークを考えましょう、ということでご提案申

し上げている次第です。

無駄を無くすことに関しては、公務員の生産性の低さということだと思います。確かに、行政全般で職員数が減っているが嘱託臨時職員が増えている。これがサービスにどうつながるのか、サービスの向上につながっているのかというお話もございましたけど、中身を見ますと、今、ワークライフバランスとか、働き方の考え方によると思います。端的に言いますと、嘱託と臨時職員という要望でいいのかどうかという問題もございません。これからは、ダイバーシティということで、いろんな働き方を行政としても提案して行くことになろうかと思います。こういったことも視野に入れまして検討しております。

保育所の建設にあたりまして、今回の市議会でも質問がございました。残ったものはどういう過程で整備していくかということで、これも現在検討に入りました。その先にあるものが、どのエリアで、どのくらいの方が、これから子どもがどうなるのか、そういったシミュレーションも兼ねながら、これからの地域展開を図っていきたいと思っております。

私の理想とする姿は、そもそも中野市はコンパクトなシティであると考えております。行政機関が一カ所にあることがコンパクトであるとは思っておりません。その中で多くの方が行動できる、交流できるような仕掛け、人が集まってくる仕掛けを私たちが手をこまねいて待っているのではなく、呼び寄せるような感覚のまちづくりをしたい、なりたいたいと思っております。

社会インフラにつきましては、中野市はいち早く公共施設の検討に着手した都市であります。中野市には、公民館施設もございます。財政統計上のデータであります朝日新聞が出している「民力」というものがあります。その中で、須坂市は公民館について「4」というデータになっています。中野市の公民館数はいくつあると思いますか。このデータによると、中野市の方が、民力が高くなっております。これは、よくよく調べてみますと、中野市の特殊なやり方で、いわゆる民活ということで、皆さんと協働して公民館を建てているということであり、中野市が直接行政施策として建てているというわけではないのです。

これからの中野市を10年位のスパンで見た場合に、財政シミュレーションは決して無理なところで計画が作成されているわけではないと思っております。むしろ、ここで抜けているのは、委員さんからご意見がありましたように、中野市がこれからどうやって儲けていくか、無駄をなくし収益を得る機会をどうやってつくっていくかという発想に転換していくか、ということが重要であるということでもあります。

これで、2年間ほど色々な手法、民活のやり方等を勉強してまいりましたので、これを提案し、今年度から少し観光方面に着手したり、若い人たちにそういった提言をしたりして、ご意見を頂く中でより具体的に話を積み上げていきたいと思っております。

【会長】

では、ここで、確かに文章的にぼやけたところがあるかもしれませんが、大綱全体につきまして、委員の皆さんの意見を一通りお聞きしたいと思います。

【委員】

各課題に対して今までと同じやり方では、行財政が立ち行かなくなるというのは、皆さんの共通の認識であると思う。その中で、どうしたらいいかというところで、色々な意見が出てくると思う。先ほど委員さんが3つの点を出されたが、その通りだと思う。効率化して、活性化して、また、それが人口減少を食い止めて行くのだらうということで、それは、市長がおっしゃっているのと同じだと思う。具体論になると難しいことと思うが、答申という形の中では抽象的になるのは仕方がないものだと思う。

【委員】

答申というのは、まとめればこのような文章になるのかもしれない。色々な意見が出た割には短文でまとめられているが、もう少し文章を長くし、具体的な意見を盛り込むようにできるのであれば、そうして欲しかった。

【委員】

都市計画税の税率が周辺より高いが、どのような経緯があったのか。

職員数の数字だけで増減を比較するのではなく、人件費の推移はどうなっているのか、職員給与はどうなっているのか周辺自治体と比較して知りたかった。

全体としては、先ほど、市長の言葉が市の職員に伝わってこの大綱案になっていると思いますが、文章は行政的であって固い感じがする。

【総務部長】

都市計画税の税率について、標準税率というのは無く制限税率となっております。都市計画税は都市計画地域の都市基盤整備を目的に使われる目的税であり、中野市は今の財政状況の中で制限税率の0.3%を採用し、他自治体に先駆け公共下水道事業を進め、水洗化率は非常に高い状態となっております。

人件費については、全国的に下降傾向であり上昇傾向ではありません。市の人件費は、国の人事院勧告に準じて行っております。ここ数年は下げる形で推移しております。平均給与について、手元に資料がなく申し訳ありませんが県下19市の中では低い方となっております。

【委員】

答申意見案については、これで十分だと思う。文章については、人の好みもあるので

申し上げるつもりはない。

資料を拝見すれば、今後は、若干、厳しい状況になると思われるが、大型事業を行った後も基金を減らすスピードよりも市債残高を減らすスピードの方が早いと思われる。

全体を通して、市の活性化、人口減少等の課題に対して、一番大事なのは、市民や民間が先行しないと難しいのではないかと感じた。例えば、松本市のサッカーの松本山雅が挙げられる。年間50万人を呼んでいる。人が集まると駐車場、交通、ごみなど様々な問題に対処しなければならないが、大きな効果ももたらす。練習場がもう一つでき、バス運営も事業展開を進めている。民間が動かないと、市が主導で活性化を目指すのは難しい。答申にある市民の動きも重要であると感じた。

【委員】

大綱に対する答申なので、特に異存はない。

ただ、職員数について、正規を減らして嘱託臨時を増やすというのは、市民のニーズに答えているのかという観点から非常に疑問を感じる。必要なニーズには正規でしっかりと対応してもらいたいと思う。先ほど、市長が嘱託臨時職員についてのあり方について検討するとおっしゃっていたので、「市民ニーズを的確にとらえた職員体制」とあるので推進していただきたい。

また、私はボランティア団体に所属している。それは、自発的な行為であり、中野市を良くしたいという気持ちで参加している。ボランティアに参加する人たちを増やすような体制も行って欲しい。

【委員】

正規を減らして嘱託臨時を増やすのではなく、市民ニーズの変化に合わせて最適な職員配置をしていくのが、一番に行政にお願いしたいことだと思う。効率化を考えるなら全体的に職員数を減らしていかざるをえないし、逆に嘱託臨時で補うのは当然のことだと思う。市長が言う民間活力などをこれからどんどん活用して行かなければならないと言った。固定的に専門性を有する正規を増やし市民にサービスを提供するのではなくて、様々な立場、職種の職員が様々なサービスを提供するという形で効率化を図っていくことが必要と思う。

【委員】

答申意見とするなら、このような言葉でまとまると思う。

行政が民間の経営感覚を持ってというように言われるようになってきた。それはそれで良いが、民間的な感覚を持って既存施設の整理統合をされると、地域人口の少ないところはトカゲのしっぽになりかねない。人口減少に伴い地域ごとの配慮ということをよく考えていただきながら、民間感覚で推進していただきたい。

【委員】

職員数について、教育部門で減少しているのは、子どもが減ればそれだけ減らすという国県の施策に従い地方も対応している。しかし、水準は維持しなければならぬので、市の負担で嘱託臨時を増やすのはやむを得ない。

市民一人当たりの職員数を出すべきではないかと思う。人口減少傾向で、現状を維持となると増加傾向になり逆に効率化にならない。人口減少で地域格差が広がると施設の維持など行政の効率化はどんどん悪くなる。その辺をどう対応していくのか、答申の中である程度明確にしておきたいと思う。市長の話だと、どんどん活性化していくということだが、これだと、点と線で例えるなら、点だけのものになってしまい効率化にならない。従って、施策の総合化及び双方向で行っていかないと効率化につながらない。具体的な目標値を定めて答申すべきではないかと思う。

事務の効率化、地域の格差とあるが、それに対して各自治体がどのような対応をしているかというところ、ICT化を図っているところもある。初期投資はかかるが、この方向に進むと市民一人当たりの職員数、人件費が抑えられるのではないかと思う。また、ラスパイレス指数というのがあり中野市は約104となっている。職員は冷遇されているわけではないが、今後、職員の効率化をどう進めるか目標管理をしたうえで、具体的な施策を盛り込んだ、先ほどのICT化など、合理的行政改革というようなことをツールとして行政改革に取り組んで欲しい。

もう少し、明確な目標を提示しても良いのではないかと思う。

【委員】

文章的には、何も言うことは無い。ただ、現状での財政の10年スパンが出ているが、不測の事態も予測してシミュレーションを用意しておいて欲しい。資料はあると思うがいざというときに対応できるように、職員一人ひとりが市民の質問に答えられるような育成も図ってもらいたい。

子どもたちを育成する職場では、嘱託臨時の短期間の対応ではなく、正規で対応して欲しい。子どもたちが慣れて安心できる環境、ニーズに対処できるのは正規だと思っている。ただ職員がいれば良いという考え方ではなく、必要などころには正規で対応すべきだと思う。

【委員】

本会の委員ではあるが、保育士の立場として、保育園では年々嘱託職員が多くなってきている。その要因は、未満児、除去食、長時間保育、手のかかる子どもなど様々なニーズに対応するためとなっている。また、担任を嘱託でまかなうクラスもあり、市民からは正規でなくなぜ嘱託なのかという声もある。職員からすれば、正規、嘱託などの隔たりなく子どもたちには接しているのだが、市民からすれば疑問を感じると言われている。

る。近年は、正規職が増加傾向にあるが、これからも、中野市を担っていく子どもたちの成長のため、答申意見案にある「市民ニーズを的確にとらえた職員体制や行政組織の整備」に力を入れて取り組まなければいけないと思う。

【会長】

各委員から意見や提言などいただきました。第3次中野市行政改革大綱案の答申ということで、市長へ答申を出したいと思いますが、それぞれ大綱案には具体性に欠けるという意見もありました。しかし、概ね答申としては、このような集約でいいのではないかというのが委員の大方の意見であったと思います。具体的なことは、このあと集中改革プランを立てて進捗管理を行い、本会へ報告し検討して行く機会がありますので、資料1にあるとおり、このような文言を付帯意見として付け、第3次中野市行政改革大綱案を適当と認め、市長へ答申意見として出したいと思いますが、委員の皆さまのご賛成をいただけますでしょうか。

【委員】

異議なし（多数）

【会長】

では、この付帯意見案をもとに、答申書を作成して、後日、正副会長で市長へ答申書を渡すということでご理解いただきたいと思います。

大変たくさんの意見や提言をいただきました。具体的な提案もあり、行政改革本部会議で検討していただけるようなので、是非、この委員会の意見を反映していただくようこの会の会長としてお願いしたいと思います。

以上で、本日は終了いたします。

4 その他

- ・正副会長で、後日、答申書の提出をする。
- ・今後のスケジュールは、答申を受けて行政改革推進本部会議で検討し大綱を決定する。
- ・大綱の具体的な項目や内容は、集中改革プランを庁内で策定し、本委員会へは10月頃にご報告させていただく。
- ・プラン進捗状況は、毎年度、本委員会へ報告させていただく。

5 閉会

終了 16時25分